

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ピノキオ幼児舎荻窪保育園
法人名	株式会社ピノコーポレーション
法人所在地	東京都杉並区高円寺南4-26-16 ビクトリアプラザ3階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「つくる」
～身近な食べ物や素材に触れ、見立てたり形にしたりしながら楽しむ活動～

<テーマの設定理由>

3歳児クラスでは、新聞紙を丸めたり貼ったりする活動や、身近なものを見立てて作る遊びに興味を示す姿が見られていた。また、日々の給食やお弁当、おにぎりなど食べ物に親しみを持っており、「これは何が入っているのかな」「どうやってできているのかな」と関心を向ける場面もあった。

そのため、子どもたちにとって身近でイメージしやすい食べ物や生活の中の素材を題材とし、作ることを楽しみながら、形・中身・違いなどにも気づいていけるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

3歳児クラスでは、新聞紙などの身近な素材を使った「つくる」活動から出発し、子どもたちにとって親しみのある食べ物へと興味が広がり、見立てたり作ったりしながら探究的な活動へと発展していった。

4月~6月：新聞紙と養生テープを使った制作活動を行う。丸める、貼るなどの基本的な動きを楽しみながら、身近なものを見立てて作る。

7月：新聞紙で屋根を作るなど、形を意識した制作に取り組む。調理の先生と一緒に色ごとのおにぎり作りも行い、食べ物への関心が広がる。

9月：給食をお弁当箱に詰め替えて食べる活動を行う。普段食べている給食を「お弁当」として捉え直し、食べ物の見え方や楽しみ方の違いを味わう。

10月：お弁当の中身への関心が高まり、おにぎりの具材や果物、パフェなど、食べ物を見立てて作る造形活動に発展する。

11月：テラスでお弁当活動を行い、少しずつ戸外に出て食べる経験へと広げる。

1月：おにぎり作りを中心に、米に触れる、ご飯を炊く、固めるなどの活動を計画。おにぎりの具材やふりかけへの興味を広げる。

2月：クッキーやバターなどの食材に触れながら、混ぜり方や固まり方の違いを感じる活動へと発展する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

新聞紙、養生テープ、ブルーシート、画用紙などの造形素材を用意し、子どもたちが丸める・貼る・並べるといった操作を楽しめるようにした。また、食べ物を題材にした活動では、お弁当箱やおにぎり、果物、パフェなど、子どもたちが日常的に目にするものを取り上げ、実物や給食の時間ともつなげながら活動できる環境を整えた。

さらに、給食をお弁当箱に詰め替える活動や、テラスでお弁当のように食べる活動を行うことで、普段の食事を違った形で体験できるよう工夫した。調理の先生とも連携し、実際におにぎり作りなど食に関わる活動へも広げていった。また、杵と臼を用意し、餅つきを行い、米から餅へと変化していくことを体験できる機会を作った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

活動の初期には、新聞紙と養生テープを使って、丸めたり貼ったりしながら身近なものを作る活動を行った。3歳児の子どもたちは特に「丸める」ことに興味を示し、新聞紙を扱う感覚そのものを楽しむ姿が見られた。

その後、制作活動を進める中で、調理の先生と一緒に色ごとのおにぎりを作る活動や、給食をお弁当箱に詰め替えて食べる活動を行った。普段の給食を「お弁当」として捉え直すことで、食べ物への関心が高まり、「おにぎりの中には何が入っているのか」「お弁当にはどんなものが入っているのか」といった興味へとつながっていった。

そこから、造形活動でもお弁当やパフェなどの食べ物を見立てて作る活動へと発展した。カップに素材を入れてパフェのように見立てたり、お月見団子を作ったりする中で、子どもたちは食べ物の形や見た目を意識しながら表現することを楽しんでいた。

さらに、おにぎり作りやお米に触れる活動（臼と杵を使った餅つき）、クッキーやバターを使った活動へと広がり、食べ物がどのように形になるのか、混ぜるとどう変わるのかといった点にも関心を示すようになった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

活動の中では、新聞紙を丸めることや素材を詰めること自体を楽しみながら、「これはおにぎりみたい」「トマトみたい」と見立てて表現する姿が見られた。特に3歳児は、細かく作り込むというよりも、自分なりに形を作り、それを身近なものに重ねて楽しむ様子が印象的であった。

また、給食をお弁当箱に詰め替える活動では、「お外で食べたいね」といった声も聞かれ、食べる場所や食べ方への関心も広がっていった。おにぎりの中身についても、「何が入っているのかな」と話題にしながら、身近な食べ物への興味を深めていた。造形活動では、子ども同士で「それなに?」「おいしそう」などと言葉を交わしたり、友だちの作ったものを見て真似したりする姿も見られた。保育者は、子どもたちの見立てや発言を受け止めながら、「何を作ったの?」「何が入っているのかな?」と問いかけることで、表現や興味がさらに広がるよう関わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3歳児の子どもたちは、身近な素材に触れながら、まずは「丸める」「詰める」「並べる」といった感覚的な操作を楽しみ、その中で自然に見立て遊びへとつなげていくことがわかった。特に、お弁当やおにぎり、パフェなど、日常の中で親しみのある食べ物を題材にすることで、子どもたちがイメージを持ちやすく、主体的に関わる姿が見られた。

また、給食や調理活動と造形活動をつなげることで、「食べるもの」と「作るもの」が子どもたちの中で結びつき、活動がより豊かに広がっていった。保育者にとっても、子どもたちの発言や見立てを丁寧に拾いながら活動を展開することの大切さを改めて感じる機会となった。